

フォーラムニュース Vol.9 2019 12/1

発行：フォーラム・子どもたちの未来のために実行委員会

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

文責／大竹永介

★シンポジウム詳細決定！ ふるってご参加ください！

〈フォーラム・子どもたちの未来のために〉シンポジウム 私たちの時代・私たちの表現 —いま、子どもたちに何を伝えるか—

〈フォーラム・子どもたちの未来のために〉は、憲法で保障された表現の自由を危うくする「特定秘密保護法」への反対声明を機に、子どもの本の関係者が集まって2014年に結成されました。その後も、他国の戦争に加担できる「集団的自衛権」を盛り込んだ安保法制が強行採決されるなど、子どもたちの未来の平和と人権は今までになく脅かされています。この時代、作家は読者に向かって何を語りかけていったらいいのか？ 私たちが受け止め取り組むべき「時代」と「表現」について、この国の歴史や社会に真摯に向きあって作品に取り組まれている3人の作家たちにお話を伺います。

(司会：野上暁)

★日時：2020年2月1日(土)、13:30(開場) 14:00～16:00

★会場：出版クラブビル・4F (地下鉄神保町駅 A5出口 徒歩2分)
(千代田区神田神保町 1-32)

★参加費：1,000円 (当日受付)



小手鞠 りい

1956年岡山県生まれ。「おとぎ話」で海潮新人文学賞を受賞してデビュー。「欲しいのは、あなただけ」で島清慈愛文学賞、「ある暗れた夏の朝」で小学館児童出版文化賞を受賞。主な作品に「アップルソング」「炎の来歴」「風ちりばめたる旗」「心の森」「初恋まねき猫」など。他、最新作「窓」を来春刊行予定。



古内 一絵

1966年東京都生まれ。ポプラ社小説大賞特別賞「銀色のマーメイド」(刊行時「快晴フライング」に改題)でデビュー。「フラダン」でIBBYオナーリスト(IBBY賞)。主な作品に「赤道 星降る夜」「花舞う里」「キネマトグラフィカ」「マカン・マラン」シリーズなどの他、最新作「鐘を鳴らす子供たち」を来春刊行予定。



森 絵都

1968年東京都生まれ。「リズム」で講談社児童文学新人賞を受賞してデビュー。「つぎのふね」で野間児童文芸賞、「カラフル」で産経児童出版文化賞、「DIVE!!」で小学館児童出版文化賞、「風に舞いあがるビニールシート」で直木賞、「みかづき」で中央公論文芸賞など受賞。近作に「カザアナ」「できない相談」など。



主催：「フォーラム・子どもたちの未来のために」実行委員会
(<https://www.f-kodomotachinomirai.com>)

絵本学会、絵本作家・画家の会、童話著作者の会、日本国際児童図書評議会
日本児童図書出版協会、日本児童文学者協会、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会

■お申し込みは、フォーラムのホームページ、もしくは下記へお願いいたします。

日本児童図書出版協会 Mail:kodomo@kodomo.gr.jp、Tel:03-6273-7484、Fax:03-6273-7485

先にお伝えしていました2月のシンポジウムの詳細が上記のように決定いたしました。皆様のご参加をお待ちしています。フォーラムのホームページ

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

にアクセスしていただく申し込みフォームがありますので、そちらからお申込みいただくと便利です。

~~~~~

## 【速報】3月には前川さんの講演会も開催！



2月のシンポジウムに続いて、3月25日には前川喜平さんの講演会を開催いたします。元文部科学事務次官としての豊富な経験と知識から、現代の文部行政、教育問題に鋭い問題提起を続けている前川氏のお話にご期待ください。

道徳の教科化をはじめ、大学入試共通テストの民間委託などなど、文部行政は混迷を極め、多くの問題点を抱えています。子どもたちの未来に直結するテーマに、前

川氏のお話から得るところは大です。皆様のご参加をお待ちしています。

◎日時：3月25日（水） 18時開場 18時半開演～20時終了予定

◎場所：日本出版クラブ

その他詳細は決まり次第順次ご案内していきます。

●フォーラムニュース9号、2019年最後の配信です。本号でお知らせしている通り、来年2020年には2月、3月と連続で大きなイベントを予定しています。ご期待ください！●「説明」をすればするほど疑惑が深まるばかりの「桜を見る会」ですが、この問題に対して「小さなこと」とか「ほかにもっと大事な問題がある」といって疑惑の追及に水を差すような意見があることに強い違和感をもちます。●確かに今日本は多くの大変な問題を抱えています。貧困、高齢化、格差・・・どれ一つとっても、喫緊の重要課題です。それぞれ様々な立場や意見があるでしょう。しっかり議論されてしかるべきです。●しかし、いうまでもなくその「議論」はきちんと民主的なルールに基づき、フェアに行われるべきものです。●「桜を見る会」の問題があぶり出したのは、それとはまったく逆のこと。疑問に対して必要な説明をしない、証拠となる文書は破棄してしまう——それは、私たちが基本としている「民主的な社会」の土台を崩してしまう「重大問題」ではないでしょうか？●このことに「右」も「左」もありません。私たちはもっとこの問題に敏感になるべきだと思わずにはいられません。●次号はもう新しい年です。来年が少しでも良い年になりますように。皆様もよいお年をお迎えください！（大竹）